“乗り継ぎ券で、『みどりっこバス』『あいあいバス』『芥見岩っこバス』を乗り継いで少し遠くへどうぞ”

『みどりっこバスヘルパー』さん募集してます。お問い合わせは下記へ→芥見東公民館内・電話 241-1062迄 楽しくお手伝いしてみましょう。

芥見東 南の

みどりっこバス 通信

芥見東・南地区コミュニティバス等運営協議会 広報誌第22号平成27年11月1日発行
発行元：広報部（芥見東公民館内） 電話・FAX 241-1062

－ 全国の模範の“みどりっこバス” －

千葉県浦安市長 松崎 秀樹様

細江岐阜市長の計らいで、7月22日に岐阜市の誇るコミュニティバス“みどりっこバス”を視察させていただきました。

当日は、私の他、副市長及び浦安市の職員4名に加えて、浦安市の交通施策に関心の高い市議会議員10名の総勢16名でお伺いしたにも関わらず、多田会長をはじめヘルパーの皆様や、岐阜市の職員の皆様には大変ご親切に対応していただきました。改めて心から御礼申し上げます。

今回の視察のきっかけは、今年のスマートシティ首長研究会全体会議の開催が岐阜市との案内状でした。

案内状を見て真っ先に思ったのが、日頃から細江市長が自慢のコミュニティバスの視察でした。

浦安市のコミュニティバスは“おさんぽバス”の愛称で、平成14年から実証実験の名目で運行が開始され、市民からの絶大な人気を得て、今では2路線が運行され、時間によっては乗り切れなくなるほどの好評を博しています。

浦安市の市域は、岐阜市と違い16.98k㎡（岐阜市は202.9k㎡）で、岐阜市の17分の1の面積に、現在16万3千人が住んでいます。

本市の埋め立て以前の元町地区は、40年前まではバスが運行されていましたが、車社会になる中で、元々狭い道路に路上駐車が溢れ、バスの運行に支障をきたしたことから、バス路線が廃止され、“おさんぽバス”の実証実験に至ったものです。

本来、浦安市内の交通不便地区解消のためという大義名分で始めた“おさんぽバス”ですが、20分に1本という定時制に加えて、100円というワンコインの運賃も人気を加速させ、今では民間バス事業者が運行する路線バスの不便性、運賃の高さと比較する市民が増え、路線バスが通っている市内全域から「“おさんぽバス”を走らせて」との要望が、日を追って高まっていて、行政を困らせています。

そんな折に、都内での首長の勉強会で細江市長から、岐阜市での画期的な「市民による、市民のためのコミュニティバス」の成功事例をお聞きし、今回の視察になったものです。

実際に“みどりっこバス”をこの目で見、芥見東・南地区の皆さんに、とりわけ多田会長にお目にかかるまで、半信半疑の思いでしたが、当日の集会場でご説明が始まって直ぐに、成功は全て多田会長を中心とした地域の“人”にあるのだと確信しました。

岐阜市の部長職を経験し、行政の裏も表も知り尽くした多田会長の掌の中で、苦労も多々あったこととは思いますが、見事に今日の成功に漕ぎ着けたことに、さすがと感服すると共に、心から敬意を覚えました。

私も、浦安市で多田会長のような人材の発掘に努め、芥見東・南地区に負けない心温かなコミュニティを市民と作り上げようと改めて決意し、芥見東・南地区を後にしました。多田会長を始め、“みどりっこバス”を支える皆さんの益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ感謝の言葉とさせていただきます。

－「みどりっこバスを見学させていただいて」－

兵庫県川西市 都市・交通政策課長
五島 孝裕 様

この度は、みどりっこバスの運行について視察をさせていただきありがとうございました。

みどりっこバスは運行から7年が経過し、昨年度、乗車人数が40万人を突破したとのことで、役員さんのみなさまにおかれましては、ここまで相当なご苦労があったかと思いますが、説明役の山田さんが終始笑顔で説明されていたのが非常に印象的で、そこに、この事業が続いている理由があるのではないかと感じました。

本市では、いよいよこれからコミュニティバス運行のあり方について地元コミュニティ組織と話し合いを進めていこうとしておりますが、今回ご説明いただいた「ヘルパー制度」をぜひ紹介したいと思っています。

手前みそですが、本市のコミュニティ組織も芥見東・南地区のみなさんと同じくらい活発で前向きに活動をされておりますので、将来、川西市版のヘルパー制度が出来るのではないかと期待で胸を膨らませているところです。その時にはぜひ報告をさせていただきます。

これからもみどりっこバスを中心として、さらにこの地区のコミュニティが活発になり、地域の皆さんの笑顔が溢れることをお祈りいたします。

7月22日（水） 芥見東公民館にて

これからも地域の皆さんに便利で安心で快適な「みどりっこバス」をめざして岐阜市・運行会社・運営協議会で協議、努力してまいります。

「岐阜市みんなで創り守り育てる地域公共交通条例」を始めました

岐阜市副市長　今岡　和也　様

本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、クルマを運転できない高齢者などの生活の足の確保が重要になってきています。しかし、公共交通は、お客様があって、維持する意義があるものですし、また維持が可能になるものです。

岐阜市の公共交通といえば、大きく2つにわけられます。1 つは、名鉄やJR岐阜駅から、長山を通って、関や大洞団地方面に行く幹線（路線）バスで、民間バスが運行をしています。もう一つが、「みどりっこバス」のように、地域が主体的に企画し、運営する「コミュニティバス」です。近くの病院やスーパーに出かけるときは、コミュニティバス、少し遠くに用事や遊びに行くときは、路線バスという使い分けをされる方が多いと思いますが、どちらも大事な公共交通ですし、コミュニティバスだけではなく、路線バスにも、地域住民が「自分たちの足」という気持ちを持っていただくこと
が、その利用促進や維持につながります。岐阜市全体では、市民の皆様に平均で年間 2 回程度バスに乗っていただければ、バスは維持できる計算になります。

岐阜の「路線バス」のバス停では、携帯電話をかざせば、次のバスが何分後に来るのかわかるシステム、夜でも時刻表が読めるよう、人が近づくと蓄電池を使って自動的に灯りがともるシステムなど、市民に使いやすい仕組みが盛り沢山です。

バス停のある幹線道路まで少し歩くことがあっても、それも健康のためになりますし、本数も多く、長山の場合で、15分も待てばバスが来ます。また、コミュニティバスとの乗換ポイントも設け、アユカ（ICカード）なら、45 分以内に路線バスとコミュニティバスを乗り継ぐと運賃が（大人で）40 円割引になります。

先日、移動の折にみどりっこバスに乗ってみました。バスはお客様でいっぱいで、ご高齢の女性が、「このバスがあるおかげで買い物やスーパーに行けるので本当にありがたい」と言う会話をされていました。また、地域の催し物や、中部運輸局長の表彰も受けた中学生ボランティアの活躍も紹介されていました。

みどりっこバスが、まさに「地域のコミュニティ」になっていて、バスを降りた時には、コミュニティバスのゆるキャラ「みどりっこちゃん」が手を振って見送ってくれているようで本当に心温まる時間を過ごせました。

路線バスとコミュニティバスで成り立つ、こうした便利なシステムを、将来世代まで続けることが必要です。そこで市では、公共交通をより便利なものとし、市民の皆様にもより「自分たちの足は自分たちで育てる」気持ちを持ち続けていただくため「みんなで創り守り育てる地域公共交通条例」というものを定めました。芥見東・南の皆様にも、これからも、引き続き公共交通を「創り」、「守り」、「育てる」取り組みをお願いします。

ーみどりっこバスヘルパーに参加してー

藍川東中　1 年　1 組
篠原　沙稀　さん

私は小さいころよく祖母とみどりっこバスに乗っていました。その時に、荷物をたくさん持って乗り降りをしているお年寄りの方たちをみて、大変そうだなと思い今回、少しでもお年寄りの方たちの手助けができるようにと、みどりっこバスヘルパーに参加しました。

実際にやってみて、最初はしっかり役に立てるかどうか心配していたけど、運転手の方がアドバイスをしてくださったので、あいさつなどもしっかりできました。途中から、お年寄りの方がたくさん来て、荷物を持ってあげることができました。

そのときに、「ありがとう。」と声をかけてもらえたのでとてもうれしかったです。

お年寄りの方が「ありがとう。」や「がんばってね。」と言って降りていくのを見て、みどりっこバスヘルパーに参加してよかったなと心から思いました。また、バスに乗る機会があれば、手助けができるようにしたいと思います。

-みどりっこちゃんが登場-

みどりっこバス通信　広報部

10 月 11 日（日）芥見南みんなのまつりにて、子どもたちとふれあうみどりっこちゃん。

10 月 18 日（日）芥見東市民運動会が開催され、みど　りっこちゃんも開会式に登場し、会場を盛り上げました